

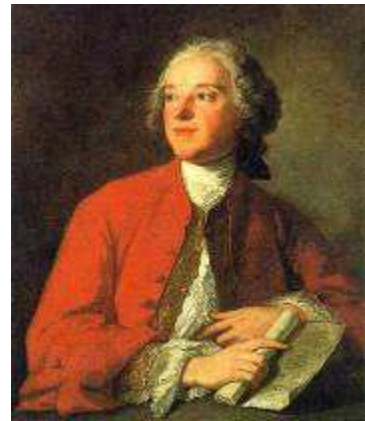
## ボーマルシェの劇『セビーリヤの理髪師』を観る 水谷 彰良

ロッセーニの歌劇《セビーリヤの理髪師》の原作がフランスの劇作家ボーマルシェの同題の戯曲（1775年初演）であるのは常識。でも、原作劇の舞台や上演映像をご覧になった方はほとんどいないのではありませんか？ 翻訳を読んでも、役者の語りや芝居としての面白さは十分に伝わりません。そもそもボーマルシェはこの作品を唄入り芝居（オペラ・コミック）として書き下ろし、戯曲の中にも明らかに歌うことを前提とするテキストが書かれています。その音楽は残されていませんが、現代の上演でもその部分は語りではなく、音楽をつけて歌われます。

この例会では、ブリュッセル、テアトル・ロワイヤル・デュ・パルクにおける上演映像（1997年10月）を、解説付きで全幕ご鑑賞いただきます。字幕は一切ありませんので、台詞を詳しく知りたい方は、事前に岩波文庫をお読みください。なお、事前勉強なしでも、解説と映像だけで充分お楽しみいただけます。（講師 記）

### ◎ボーマルシェの『セビーリヤの理髪師、または無益な用心』

ボーマルシェ（ピエール＝オギュスタン・カロン [・ド・ボーマルシェ] Pierre-Augustin Caron [de Beaumarchais], 1732-99) の『セビーリヤの理髪師、または無益な用心 (*Le Barbier de Séville ou la Précaution inutile*)』は、1775年2月23日にコメディ・フランセーズ（サル・デ・マシーン Salle des machines）で初演された散文喜劇である。もともとボーマルシェは1772年にこれを唄入り芝居（オペラ・コミック）として書き下ろし、イタリア劇団に持ち込んだものの、上演を断られて喜劇用台本に改作、翌1773年1月にコメディ・フランセーズで受理された。しかし、作者の筆禍事件のため上演禁止となり、初演まで2年間お蔵入りを余儀なくされている。ところが何の気まぐれか、ボーマルシェは初演直前に作品を4幕から5幕に改作、2月23日の初日はこの5幕版で上演されたため冗長と批判され、3日後の再演で当初の4幕版に戻して大成功を収めた……少々ややこしいが、オペラ解説書に書かれていない経緯を補足すればこのようになる。



ボーマルシェの肖像(1755年)

### ◎ボーマルシェ原作のオペラ化について(ロッセーニまでの《セビーリヤの理髪師》)

ボーマルシェ原作の最初のオペラ化を1782年初演のパイジエッロ作品とするオペラ書もあるが、実際はそれ以前にも複数の例がある。その最初はゲオルク・ベンダの息子フリードリヒ・ルートヴィヒ・ベンダ (Friedrich Ludwig Benda, 1752-92) による4幕のコーミシュ・オパー《セビーリヤの理髪師 (*Der Barbier von Seville*)》で、初演は1776年5月7日ライプツィヒのランスシュテター・トーア (Rannstädter Tor) で行われた<sup>1</sup>。台本はグスタフ・フリードリヒ・ヴィルヘルム・グロスマン (Gustav Friedrich Wilhelm Grossmann, 1746c-96) によるボーマルシェ原作の独訳が使われた。序曲と嵐の音楽、さらに13の歌唱ナンバーから構成されたこの作品は、アーベル・ザイラーの一座によって各地で上演され、ドイツ圏ではそれなりに流布したようだ（ドレスデン、ゴータ、フランクフルトでの上演例があり、1779年にはライプツィヒでピアノ伴奏譜も出版されている）。

シュティーガーによれば、ベンダ作品の初演から5ヶ月後の1776年10月2日にベルリンでヨハン・アンドレ (Johann André, 1741-99) の音楽による2幕の唄入り喜劇《セビーリヤの理髪師 (*Der Barbier von Sevilien*)》が上演されており、台本は同じグロスマンの独訳であるという<sup>2</sup>。しかし、これはオペラではなく、あくまで芝居に歌が挿入されたにすぎない。シュティーガーはさらにヨハン・クリスティアン・ツァヒャリアス・エルスベル

<sup>1</sup> Franz Stieger: *Opernlexikon I*, Tutzing, 1975. がベンダ作品の初演を1776年8月ドレスデンとするのは誤り。同作品に関する基本情報は *The New Grove Dictionary of Opera*, London, 1992. [以下 Grove-O と略記] の項目「Benda (3)」を参照されたい。

<sup>2</sup> Stieger, op.cit., p.143.

ガー (Johann Christian Zacharias Elsberger 1736-90) 作曲の 4 幕のジングシュピール《セビーリヤの理髪師 (*Der Barbier von Sevilla*)》(1783 年ズルツバッハ初演) もデータとして挙げているが、台本作者も含め詳細は不明である。

以上 3 作の中で最も流布したのはベンダ [息子] 作品であるが、おそらくドイツ圏を出ることがなかったのが、最初のイタリア・オペラ化となるジョヴァンニ・パイジェッロ (Giovanni Paisiello 1740-1816) の《セビーリヤの理髪師、または無益な用心 (*Il barbiere di Siviglia, ovvero La precauzione inutile*)》に影響を与えたとは考え難い。このパイジェッロ作品は 4 幕のドラマ・ジョコーゾで、1782 年 9 月 26 日にサンクト・ペテルブルクのエルミターージュ宮廷劇場で初演された。台本作者はジュゼッペ・ペトロゼッリーニ (Giovanni Petrosellini, 1727-?) とするのが通説となっているが、近年疑問が呈され、結論はまだ出ていないようだ<sup>3</sup>。このパイジェッロ作品は初演からほとんどなくヨーロッパ中に流布しており、1816 年のモルラッキとロッシーニ両作品にも直接・間接の影響を与えることになる。その間 1796 年頃ニコロ [またはニコラ]・イズアール (Nicolò [Nicolas] Isouard, 1773-1818) の《セビーリヤの理髪師 (*Il barbiere di Siviglia*)》もマルタ島で初演されているが、詳しいことを知り得ない。

パイジェッロの《セビーリヤの理髪師》はロッシーニ作品によって駆逐されるまで、この題材による最も人気の高いオペラであった。例えばミラーノのスカラ座では 1786 年 9 月に初めて上演され、翌 1788 年、1797 年、1800 年、1811 年にも再演されたのに、ロッシーニ作品が登場した後は 1939 年まで 100 年以上も上演されていない<sup>4</sup>。なお、ロッシーニ作品の初演 (1816 年 2 月 20 日ローマのアルジェンティーナ劇場) より 2 ヶ月遅れでフランチェスコ・モルラッキ (Francesco Morlacchi, 1784-1841) 作曲の 4 幕のドラマ・ジョコーゾ《セビーリヤの理髪師 (*Il barbiere di Siviglia*)》が 1816 年 4 月 27 日にドレスデンの宮廷劇場で初演されている。この作品はパイジェッロの台本に若干手を加えて使用 I (レチタティーヴォ・セッコは基本的にパイジェッロ作品のまま)、楽曲にもパイジェッロの影響がみられ、ロッシーニを凌駕するものではなかった。

## ◎ポーマルシェ『セビーリヤの理髪師』登場人物と構成

**登場人物：** 註：ポーマルシェはスペインの古い衣装と各登場人物について詳細に指定しているが、ここでは省略する。

**アルマビバ伯爵** Le Comte Almaviva —— スペインの大貴族。ロジーヌの未知の恋人。ランドール Lindor と  
**バルトロ** Bartholo —— 医師。ロジーヌの後見人 名乗る  
**ロジーヌ** Rosine —— 貴族出身の若い娘。バルトロの養女  
**フィガロ** Figaro [註] —— セビーリヤの理髪師 註：自筆草稿では Figuro と表記 (p.5 写真参照)  
**ドン・バジール** Don Bazile —— オルガン弾き (僧衣をまとっている)。ロジーヌの歌の先生  
**ラ・ジュネス** [青春] La Jeunesse —— バルトロの老僕  
**レヴェイエ** [利発者] L'Éveillé —— バルトロの下僕。間拔けで寝ぼけた若者  
ほかに公証人、法官、警吏数名、下男たち

## 時と場所：

時の指定なし。場所はセビーリヤ。舞台は第 1 幕が街頭のロジーヌの窓の下。第 2 幕～第 5 幕はバルトロの家の中。



第 1 幕第 6 景(左)と第 4 幕第 6 景(右)の挿絵

<sup>3</sup> この問題については Galliano Ciliberti: Morlacchi e I suoi rapporti con Rossini nel panorama musicale europeo della prima metà dell'Ottocento [Bollettino del centro rossiniano di studi, anno XXXIII., Fondazione G. Rossini, Pesaro, 1993.] p.76. とその註 23 の文献を参照。

<sup>4</sup> 同劇場上演記録による (Gianpiero Tintori: Cronologia opere-balletti-concerti 1778-1977., Bergamo, 1979.)

構成(ボーマルシェとロッシーニ作品対照)

註：テキスト上、完全には対応しない

ボーマルシェ 4 幕決定版

ロッシーニ作品

【第 1 幕】

- 第 1 景 伯爵 (見栄や打算で寄ってくる女に飽きた伯爵は、ロジーヌの後を追ひ、マドリードから 400 キロ離れたセビーリャに来ている。)
- 第 2 景 フィガロ/伯爵 (フィガロが詩を作りながら登場。「当節は口にするにも当たらないことは、歌にして歌いのめすんだ」。続いて旧知の伯爵と対話)
- 第 3 景 バルトロ/ロジーヌ (ロジーヌは喜劇《無益な用心》の歌詞を手に入れている。バルトロが喜劇をバカにすると彼女は歌詞を 2 階から落とし、伯爵に拾わせる)
- 第 4 景 伯爵/フィガロ (伯爵からロジーヌに恋をした経緯を聞いたフィガロは、兵士に扮してバルトロの家に行くよう勧める)
- 第 5 景 バルトロ (ロジーヌを家から出さぬよう命じて外出する。それを伯爵とフィガロが聞いている)
- 第 6 景 伯爵、フィガロ (伯爵はギターの伴奏で、バルコニーに向けて 3 節からなる求愛の歌を歌う) →歌詞 p.5

【第 2 幕】

- 第 1 景 ロジーヌ (ランドールに手紙を書く)
- 第 2 景 ロジーヌ/フィガロ (フィガロは自分の親戚で貧乏なランドールがロジーヌに恋をしている、と話す)
- 第 3 景 ロジーヌ (フィガロはいい人、と喜ぶ)
- 第 4 景 バルトロ/ロジーヌ (バルトロはフィガロに腹を立てている。フィガロが家に来たかと詰問されたロジーヌは、反抗的になって自分の部屋でフィガロと話したと答える)
- 第 5 景 バルトロ (怒りながら下僕のレヴェイエを呼ぶ)
- 第 6 景 バルトロ/レヴェイエ (バルトロは、あくびをしているレヴェイエにフィガロが来たかどうか訊くが埒があかない)
- 第 7 景 前景の人物とラ・ジュネス (くしゃみをするラ・ジュネスにも訊くが、埒があかない)
- 第 8 景 バルトロ/ドン・バジール/フィガロ (バジールはアルマビバ伯爵がセビーリャに来ているとバルトロに教え、中傷を勧める。フィガロは隠れて彼らの話を聞いている)
- 第 9 景 フィガロ (バジールの中傷に耳を貸す人はいない、と独語)
- 第 10 景 ロジーヌ/フィガロ (バルトロが明日中にロジーヌと結婚するつもりだと教える)
- 第 11 景 バルトロ/ロジーヌ (ロジーヌの指にインクがつき、紙が一枚足りないことを詰問する)
- 第 12 景 伯爵/バルトロ/ロジーヌ (酔っ払いの兵士に扮した伯爵が来て、ロジーヌに紙を渡そうとする)
- 第 13 景 伯爵/バルトロ (伯爵はバルトロの人相書きを読みあげ、さんざん愚弄する)
- 第 14 景 ロジーヌ/伯爵/バルトロ (伯爵は宿泊許可証を示し、隙をみてロジーヌに手紙を渡そうとして決闘騒ぎになる)
- 第 15 景 バルトロ/ロジーヌ (ロジーヌは伯爵の手紙を従兄からの手紙とすり替えてごまかし、バルトロは謝罪するはめに)
- 第 16 景 ロジーヌ (ランドールの手紙を読み、喜びと不安を感じる)

第 1 幕

- N.1 導入曲「静かに、静かに」
- N.2 フィガロのカヴァティーナ「町の何でも屋に」  
(N.2 の後のレチタティーヴォ)  
[⇒ N.4]  
(N.2 の後のレチタティーヴォ)
- N.3 カンツォーネ「もし私の名を知りたければ」と N.4. フィガロと伯爵の二重唱「あの不思議にして万能の」  
(N.5 ロジーナの演技)
- N.7 ロジーナとフィガロの二重唱「それじゃ私なのね」  
(N.5 の後のレチタティーヴォ)  
|  
|  
|  
|  
|  
|
- N.6 バジールオのアリア「中傷とはそよ風です」  
(N.6 の後のレチタティーヴォ)  
|
- (N.7 の後のレチタティーヴォ)
- N.9 第 1 幕フィナーレ「おーい、誰か！」の前半部  
|  
|  
なし  
なし

### 【第3幕】

- 第1景 バルトロ (バジールとの話をロジーヌが知るのを不思議がる)
- 第2景 バルトロ/伯爵 (学生の服を着た伯爵がバジールの弟子アロンソと称して来て、ロジーヌの手紙を見せて信用させる)
- 第3景 伯爵 (隠れてロジーヌとバルトロの会話を聞こうと考える)
- 第4景 伯爵/ロジーヌ/バルトロ (ロジーヌはアロンソが変奏したリンドーロであるのに気づき、《無益な用心》の歌の稽古と称してスペイン風のアリエットを歌う) → 歌詞 p.5
- 第5景 ロジーヌ/バルトロ/伯爵/フィガロ (居眠りから目を覚ましたバルトロが古風な歌を歌うと、フィガロが来る。バルトロは鍵を渡さず自分で物を取りに行く)
- 第6景 フィガロ/伯爵/ロジーヌ (よろい戸の鍵を預かりそこなつたのを悔しがるフィガロへ、ロジーヌが見分け方を教える)
- 第7景 バルトロ/フィガロ/伯爵/ロジーヌ (バルトロが戻り、フィガロに鍵を渡して取りに行かせる)
- 第8景 バルトロ/伯爵/ロジーヌ (大きな音が聞こえ、バルトロはフィガロが上等な品を壊したなど怒って出て行く)
- 第9景 伯爵/ロジーヌ (伯爵は今夜迎えにくる、とロジーヌに話す)
- 第10景 ロジーヌ/バルトロ/フィガロ/伯爵 (フィガロの弁解)
- 第11景 前景の人々/ドン・バジール (突然バジールが来るので伯爵たちは慌てる。伯爵は彼に財布を握らせると病人に仕立て、退散させる)
- 第12景 バジールを除く前景の人々 (伯爵は、よろい戸の鍵を手に入れたので真夜中に迎えにくるとロジーヌにささやく。フィガロは眼に何か入ったと言ってバルトロの気をそらす)
- 第13景 バルトロ/フィガロ、伯爵 (フィガロと伯爵が去る)
- 第14景 バルトロ (ことの次第を説明できるのはバジールだけだと言ってバルトロは混乱する)

—— 暗転し、嵐の音が聞こえ、オーケストラが音楽を奏する、と指定

### 【第4幕】

- 第1景 バルトロ/ドン・バジール (バジールはアロンソを知らない。バルトロはロジーヌの手紙を利用し、先手を打って結婚しようと考え、公証人を呼ばせる)
- 第2景 ロジーヌ (真夜中なのにランドールが来ないので不安になる)
- 第3景 ロジーヌ/バルトロ (バルトロはロジーヌの手紙を彼女に見せ、アルマビバ伯爵にだまされていると言う)  
(ショックを受けたロジーヌはバルトロとの結婚を決意する)
- 第4景 ロジーヌ (絶望するロジーヌ)
- 第5景 伯爵/フィガロ (2人、窓からロジーヌの部屋に入る)
- 第6景 伯爵/ロジーヌ/フィガロ (手紙を示して怒るロジーヌに伯爵は自分がアルマビバであると明かすと、彼女は失神しかける。フィガロははしごが外されているのに気づき、慌てる)
- 第7景 公証人/ドン・バジール/前景の人々 (公証人とバジールが来るので、伯爵はバジールを買収して結婚契約の証人にする)
- 第8景 バルトロ/法官/数人の警吏/下男たち/前景の人々 (法官の前で伯爵とロジーヌの結婚が認められ、バルトロもロジーヌを諦める)

★第1幕で対応しない楽曲は N.5 ロジーナのカヴァティーナ「今の歌声」、N.8 バルトロのアリア「わしのような医者に向かって」、第1幕フィナーレ後半部。第2幕で対応しない楽曲は、N.14 ベルタのアリア「年寄りには妻を求め」、N.18 小フィナーレ。

### 第2幕

(第2幕冒頭のレチタティーヴォ)

N.10 伯爵とバルトロの二重唱「あなたに平安と喜びがありますように」

(N.10の後のレチタティーヴォ)

N.11 ロジーナのアリア「愛の火を燃やす心を」

N.12 バルトロのアリエッタ「おまえがそばに  
いるときは」と N.12の後のレチタティー  
ヴォ

N.13 五重唱「ドン・バジール!」

なし

なし

N.15 嵐の音楽

(N.14の後のレチタティーヴォ)

なし

なし

(N.14の後のレチタティーヴォ)

なし

N.14a フォードル夫人のための追加アリア「あ  
あ、もし本当なら」

(N.15の後のレチタティーヴォ)

N.15の後のレチタティーヴォと N.16 三重唱  
「ああ! なんと意外な展開でしょう!」

(N.16の後のレチタティーヴォ)

N.17 レチタティーヴォと伯爵のアリア「もう  
逆らうのをやめろ」と N.17の後のレチタ  
ティーヴォ

★パイジェットとモルラッキはボーマルシェ  
を踏襲して第2幕フィナーレをロジーナ  
のアリアとするのに対し、ロッシニは大規  
模なアンサンブル・フィナーレとした。



ポーマルシェ『セビーリヤの理髪師』  
自筆稿(第5幕第5景) ⇒

Le Comte  
Si donc tu as ~~une~~ l'adresse Du peuple.

Siquaro  
C'est la bonne. C'est celle du plaisir X  
Voilà bien nos gens de nous se désoleraient, compromis de se déguiser en pâtre.  
n'avaient l'habit du fatras, les cocardes et Le Comte  
la boulette d'ortie, ~~la boulette d'ortie~~ ~~la boulette d'ortie~~ ~~la boulette d'ortie~~  
la boulette d'ortie.

Le Comte  
En parles-tu bien, Siquaro?

Siquaro  
Bah! bah! parler!  
Ce n'est rien que ça. Vous ne  
verrez agir!

[ il voit sortir Bartholo avec une  
en de Le Comte ]

Scene 5<sup>e</sup>  
Le Comte Lui-même Bartholo  
Bartholo son Padam à jamais  
Jamais revendra, qu'on ne laisse entrer  
Personne. Quelle sottise à moi d'être



ポーマルシェ『セビーリヤの理髪師』  
初版台本の扉

第1幕第6景伯爵の歌の歌詞(小場瀬卓三・訳。『マリヴォーノポーマルシェ名作集』白水社、1977年より)

伯爵 (往きつ戻りつしながら、ギターに合わせて歌う)  
第一節  
「命なれば、わが名を告げむ、  
名を秘めてこそ、慕ひもしつれ。  
名乗りて、何の望みあらむ?  
ままよ、おんみに従はむ。」

ファイガロ (低い声で) こりゃあ上出来だ! 殿さま、しっ  
かり!

伯爵  
第二節  
「ランドールてふ、いやしの生れ、  
わが願ひは、若者のそれ。  
ああ! なにゆるる吾になしや  
きみに捧ぐる富、位!」

ファイガロ へえ、驚いたね、歌を自慢のおれだって、ああ  
うまく作れねえや。

伯爵  
第三節  
「朝(あさ)とて、やさしき声で  
吾は歌はむ、望みなき恋。  
きみ見れば、心なくさむ、  
歌ききて、よろこびたまはば!」

ファイガロ へえ! 殿さまにしちやあ大出来だ!……(近  
寄って主人の服の裾に接吻する。)

伯爵 ファイガロかい?  
ファイガロ 何でございます、殿さま?  
伯爵 聞こえたと思うかい?  
ロジャーヌ (家の中で歌う)  
《法律の先生》の節で)  
「どこから見ても、ランドールはよい方  
いついつまでも、愛しつづけましょ。」

(一つの窓が大きな音を立てて閉まるのが聞こえる。)

ファイガロ こんどは、聞こえたとお思ひになれましょう?  
伯爵 窓を閉めてしまったな。きつと誰かが部屋の中に  
入って来たにちがいない。

「ひろ野原に、時はいま、  
アムールてふ愛の女神  
恋人たちのよろこぶ  
初春をともなひ帰り、  
ものみなは、またよみがへる。  
燃えあがる春の焰は  
咲く花に、はた若き心に、  
すみずみまで拡がりてあり。  
羊の群、数なして  
村むらより出づる見ゆ。  
見わたす丘辺にはなべて  
小山羊の鳴き声みちみちて  
やまびこのごと響きあひ、  
小羊は躍りあがる。  
ものみな、内よりわき立ち、  
伸びゆかざるものなし。  
牝山羊の群は草をはみ、  
草花はみな咲き匂ふ。  
忠実なる見張りの犬は、  
その群を見張りてまもる。  
されど、恋に心もゆる  
ランドールの藁ふは、  
かの羊飼の乙女に

愛せらるるさいはひのみ。  
(同じ節で)  
母のもとを遠く離れて  
この羊飼の乙女は  
愛するひとの待つかたへ  
高らかに歌ひもて行く。  
このたくらみもて、アムールは  
彼女の心をくまます。  
さはされど、歌うたひなば  
危きをまぬかれうるや?  
音色はあまき牧笛、  
小さき鳥の歌声  
彼女の若々しき魅力、  
十五、六の乙女心、  
すべては彼女をかき立て、  
若き心をそそる。  
ああ、哀れなる乙女こは  
不安に心たちさわぐ。  
ものの陰より窺ふは、  
恋の若者ランドール。  
靴かるく乙女は進む。  
ランドールは躍り出で

愛しの乙女を抱きしむ。  
心のうちには喜べど、  
なだめらるるを望みて、  
乙女は腹立ち装ひぬ。  
(小反復)  
嘆きの溜め息、吐息、  
心尽しと約束、  
激しき愛撫、いつくしみ、  
楽しき言葉のかずかず、  
よしののざれごと、ふざけ、  
あらゆる手つくしてなだむ、  
やがて羊飼の乙女は  
もはや怒りうち忘れぬ。  
ねたみ男の来りて、  
うれしき幸みだすとも、  
かぎりなき心づかひして……  
ふたりの愛を隠さんと  
恋人たちは力あはせむ。  
されど、たがひに愛すれば  
せかるればせかるるほどに  
恋の楽しさ、いやまさる。」

### 上演映像

ブリュッセル、テアトル・ロワイヤル・デュ・パルク(1997年10月)

Collection COPAT(フランス語。フランスから輸入) 演出: Gérald Marti

アルマビバ伯爵: Damien Gillard バルトロ: Daniel Hanssens ロジーン: Micheline Goethals

フィガロ: Thierry Lefèvre ドン・バジール: Jean-Claude Frison

(第1幕: 21分 第2幕: 29分 第3幕: 25分 第4幕: 15分)

### 本日のおまけ (ロッシーニ《セビーリヤの理髪師》より)

第1幕フィナーレより 2005年マドリード・レアル劇場 5分ほど

伯爵のアリア〈もう逆らうのをやめろ〉の後半 メトロポリタン歌劇場 2006年 3:43

第2幕の小フィナーレ 2005年マドリード・レアル劇場 2:17

知られざる小フィナーレの原曲(1815年のカンタータ《アウローラ》終曲) 4:39

